

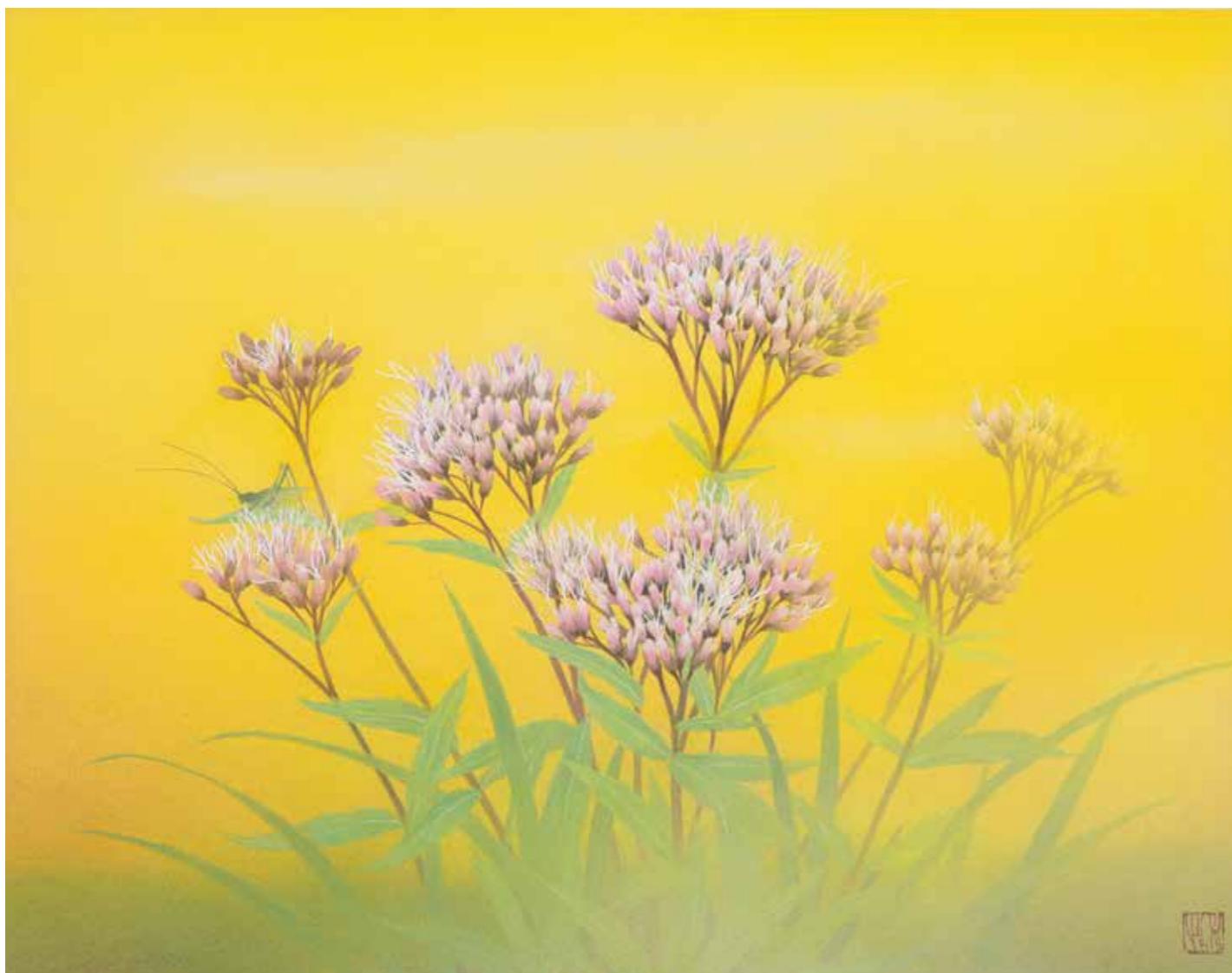


# 和's YAMATO

(わづやまと)

2023  
秋号

- 第八回 関ヶ原の戦い 天下分け目の戦い
- 第七回 北条氏の抵抗と関東国替え
- 第六回 秀吉との対立
- 徳川家康を襲う数々の危機
- 第五回 郡土史跡めぐり 「本間町古墳群・一ノ関古墳」 田中明子
- シリーズ群馬の芸術家 阿佐谷北口駅前ビル 大規模改修
- 写真で楽しむ群馬の自然 「赤城の大沼と朝霧」



「郷のいろ フジバカマとキリギリス」 F6号 須藤和之 画  
ヤマトビオトープ園にて

写真で楽しむ 群馬の自然





## 赤城の大沼と朝霧

群馬県前橋市富士見町赤城山

撮影 藤重 朋紀 氏  
略歴 1952群馬県利根郡みなかみ町生まれ 2001 フリー  
1971 群馬県立渋川高等学校卒業 2010 写真集「上州路・一本桜」  
1972 東京写真専門学院中退 2011 写真集「上州路」

1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社

大沼は赤城最大のカルデラ湖(約80万m<sup>3</sup>)で、湖畔には1周約1時間の遊歩道が整備されています。秋になると夏のレジャー客の賑わいから、静かな湖面にワカサギ釣りのボートを見かけるようになります。10月下旬には外気温が水温より低くなるため、早朝には朝霧が立ち込め、清澄な湖面に山容が浮かび上がる幻想的な景色が広がります。

### 須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール PROFILE

1981年 群馬県前橋市生まれ  
2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011~20) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーIII出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト) 現在 日本美術院院友  
OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutooo.net/>

和's YAMATO (わづやまと) 秋号 2023 (第58号)

#### 【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和's YAMATO 秋号 2023年(令和5年) 9月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室)群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森

附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター

ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



# 徳川家康を襲う数々の危機

監修：歴史家・文学博士 安藤優一郎氏 文・写真：木下直也

徳川家康は戦国時代を終わらせ、泰平の世・江戸を開いた英傑です。しかし、その70余年にわたる生涯は、度重なる危機の連続でした。家康が徳川幕府を開くに至るまでに直面した数々の危機に着目し、絶体絶命の窮地をどのように乗り越えていったかを紹介します。

## 第六回　秀吉との対立



### 秀吉との対立

天正10年（1582）6月2日、本能寺の変で織田信長が落命し、信長の後継者として躍り出たのは羽柴秀吉だった。明智光秀を討ち取った秀吉はその地位を急速に高めていた。信長の死後、織田家の当主となつたのは、本能寺の変で自刃した信忠（信長の長男）の長男、三法師だった。三法師は三歳の幼少であつたため、秀吉、柴田勝家ら織田家重臣による集団指導体制が取られることとなつた。しかし、三法師の「名代」として大坂城の築城を開始し、着々と勢

て実質的な当主となることを目指す信長の次男・信雄と三男・信孝が対立、信雄と組んだ秀吉が信孝と組んだ柴田勝家を賤ヶ岳の戦い（天正11年4月）で破り、秀吉が信長の遺志を継ぐ形で、天下統一事業に着手する。ところが、勢いに乗る秀吉に不満を抱いたのが、それまで手を結んでいた信雄だった。

秀吉は、賤ヶ岳の戦いの後、信長の領国の大坂城を手中に收め、新たな居城として大坂城の築城を開始し、着々と勢



晩年の家康像（駿府城公園）

再建された豊臣秀吉公像（大阪城豊國神社）



明治36年に大坂城内に建立された後、昭和18年に戦局の激化と物資の不足を補うため供出され、平成19年に再建されました。  
住所：大阪市中央区大阪城2-1  
写真提供：（公財）大阪観光局

力を拡大していた。この動きに対し、尾張・伊勢・伊賀を領有する織田信雄が反発し、家康に秀吉の動きを封じるために協力を要請する。家康も秀吉に対抗すべく、信雄と手を結ぶ道を選んだ。天正12年3月、秀吉と家康・信雄連合との亀裂は決定的となり、衝突は不可避となる。秀吉方の大垣城主・池田恒興が信雄に属していた犬山城を攻め落とし、攻勢に出たため、家康と信雄は小牧山城に本陣を置き、秀吉

軍とにらみ合う。同年4月、家康・信雄軍は三河に進軍中の秀吉軍を尾張長久手で破るが、秀吉軍は信雄の本拠地である伊勢に攻め込み、一転して弱気になった信雄は家康に相談すること無く、秀吉に人質を差し出し和睦する。

織田信雄は秀吉に臣従し、家康も服属するよう求めたが、家康は拒み続けた。しかし、天正13年11月に重臣の石川数正が離反して秀吉方に寝返るといふ事件が起こり、家康は追い詰められる。形勢が不利な中で秀吉と再戦することが避けられない状況にあつたが、同

年11月29日に畿内や中部地方を襲う巨大地震・天正地震が発生する。家康は、秀吉の領国が甚大な被害を受け、秀吉軍の戦力が低下したことを見極め、講和を結んで危機を脱しようと考えた。秀吉の姿勢も軟化したため、家康は秀吉に臣従する道を選んだ。

### 犬山城と木曽川

犬山城の天守は現存する日本最古のもので、国宝に指定されています。信長・秀吉・家康がそれぞれの時代に犬山城を手にしたことで天下人の道を切り開きました。  
住所：犬山市犬山北古券65-12  
写真提供：（公財）大阪観光局

犬山城の天守は現存する日本最古のもので、国宝に指定されています。信長・秀吉・家康がそれぞれの時代に犬山城を手にしたことで天下人の道を切り開きました。  
住所：犬山市犬山北古券65-12  
写真提供：（公財）大阪観光局

### 岐阜城

旧称は稲葉山城で、斎藤道三の居城。永禄10年（1567年）説に  
永禄7年（1574年）8月、織田信長が稲葉山城を攻略し、地名を「井の口」  
から「岐阜」と改称しました。  
住所：岐阜市金華山天守閣18番地  
写真提供：岐阜県観光協会

### 大垣城

軍とにらみ合う。同年4月、家康・信

雄軍は三河に進軍中の秀吉軍を尾張長久手で破るが、秀吉軍は信雄の本拠地である伊勢に攻め込み、一転して弱

気になった信雄は家康に相談すること無く、秀吉に人質を差し出し和睦する。

織田信雄は秀吉に臣従し、家康も

服属するよう求めたが、家康は拒み続

けた。しかし、天正13年11月に重臣の石

川数正が離反して秀吉方に寝返るとい

ふ事件が起こり、家康は追い詰められ

る。形勢が不利な中で秀吉と再戦する

ことが避けられない状況にあつたが、同

年11月29日に畿内や中部地方を襲う

巨大地震・天正地震が発生する。家康

は、秀吉の領国が甚大な被害を受け、

秀吉軍の戦力が低下したことを見極

め、講和を結んで危機を脱しようと考えた。秀吉の姿勢も軟化したため、家康は秀吉に臣従する道を選んだ。

犬山城と木曽川

犬山城の天守は現存する日本最古のもので、国宝に指定されています。信長・秀吉・家康がそれぞれの時代に犬山城を手にしたことで天下人の道を切り開きました。  
住所：犬山市犬山北古券65-12  
写真提供：（公財）大阪観光局

「大御所」として駿府に移ってきた頃の家康の姿を表した銅像です。家康は晩年の65歳から亡くなる75歳までの約10年間を駿府で過ごしました。  
住所：静岡市葵区駿府城公園1-1  
写真提供：静岡県観光協会

「大御所」として駿府に移ってきた頃の家康の姿を表した銅像です。家康は晩年の65歳から亡くなる75歳までの約10年間を駿府で過ごしました。  
住所：静岡市葵区駿府城公園1-1  
写真提供：静岡県観光協会

## 第七回



# 北条氏の抵抗と関東国替え



北条五代歴代城主を模した武者行列と、吹奏楽部や陸上自衛隊の音楽隊、神輿など総勢1600名が勇壮に市中を練り歩きます。また、今年は小田原を治めた北条家が「伊勢」から「北条」に改姓し500年の年となり、5月3日に盛大に行われました。写真提供：神奈川県小田原市



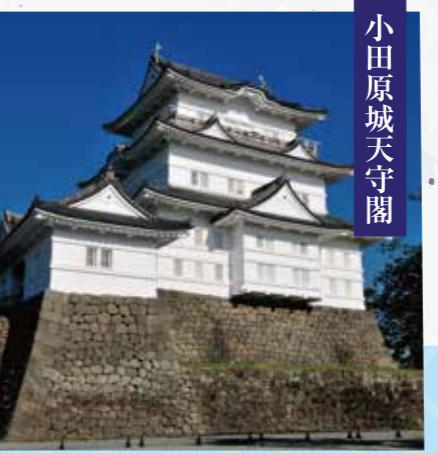
天正6年 上杉謙信急死の後、真田昌幸が沼田城攻略の前線基地として名胡桃城を築きました。  
写真提供：観光ぐんま写真館  
住所：利根郡みなかみ町下津3462-2



旧江戸城の本丸・二の丸・三の丸の一部を宮殿の造営にあわせて皇居附属庭園として整備されたもので、昭和43年(1968)から公開されています。  
写真提供：(公財)東京観光財団  
住所：東京都千代田区千代田1

3年以上も続いた家康と秀吉の対立は、天正14年(1586)10月27日に家康が大坂城に登城し、秀吉に拝謁して終結した。この時点で秀吉に服属していない地域は、関東、東北、九州で、秀吉は九州の島津氏を討伐し、家康には関東・東北の平定を命じた。家康は同盟関係にあった北条氏に、秀吉に臣従して整備拡張されました。

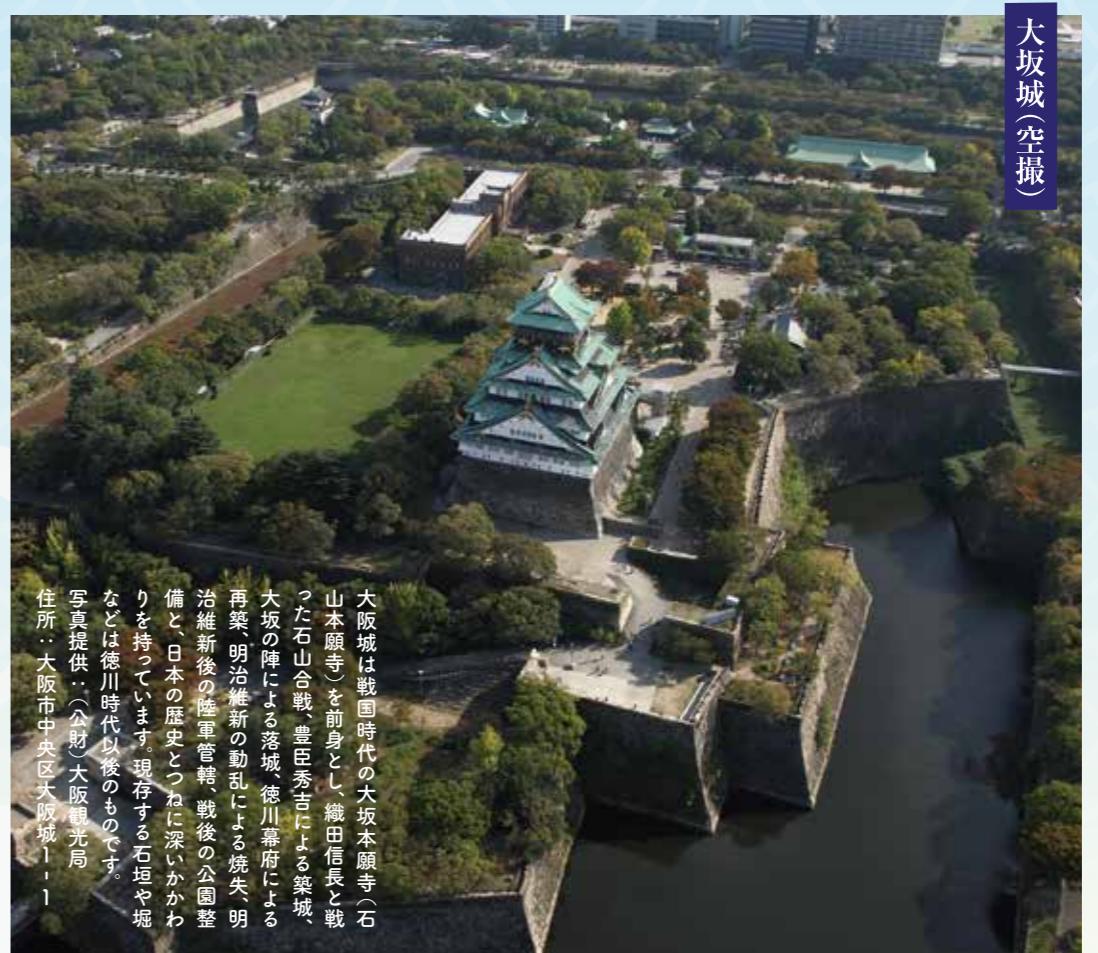
写真提供：神奈川県小田原市  
住所：小田原市城内6番1号



小田原城天守閣

するよう促したが、北条氏はこれに応じなかった。家康は秀吉と北条氏の板挟みに合い、苦しむこととなる。北条氏は秀吉軍の侵攻に備えて、東北で勢力を拡大している伊達政宗との連携を強化する一方、領国の防衛体制も強化した。居城の小田原城では、城下町一帯を全長9キロにわたって堀や土塁で囲う、日本で最大規模の「総構え」を構築した。また、上野の松井田城、箕輪城、金山城など関東各地の支城でも普請が行われた。

天正16年(1588)、家康は同盟破棄も辞さない強い姿勢で、北条氏に上洛するよう説得したところ、北条氏は態度を軟化させ、何事にも秀吉の意向に従うと伝えてきた。同年8月22日に北条氏政の弟の氏規(うじのり)が秀吉に拝謁する。しかし、北条氏の重鎮の間では路線対立があり、氏政は秀吉への臣従に難色を示しており、秀吉との決戦も辞さない强硬派だった。



大阪城(空撮)

大阪城は戦国時代の大坂本願寺(石山本願寺)を前身とし、織田信長と戦った石山合戦、豊臣秀吉による築城、大坂の陣による落城、徳川幕府による再築、明治維新の動乱による焼失、明治維新後の陸軍管轄戦後の公園整備と、日本の歴史とともに深いかわりを持っています。現存する石垣や堀などは徳川時代以後のものです。

写真提供：(公財)大阪観光局  
住所：大阪市中央区大阪城1-1

## 北条氏滅亡の引き金 名胡桃城事件

氏規の上洛により、北条氏は臣従したと判断した秀吉は、上野の沼田・吾妻領をめぐる北条氏と真田昌幸の領土問題の解決(惣無事令)に着手した。北条氏が領土に関して秀吉の裁定に従うならば、他の大名や領主たちはそれに倣つて秀吉の裁定に従うはずという自論見だった。秀吉の裁定は、北条氏に沼田・吾妻領の3分の2を与えるといふもので、北条氏と昌幸双方にとって不満が残った。両者とも、そのすべてを手に入れ、上野の領国化を完了させる

ことが悲願だったからである。氏政は、秀吉に上洛を約束したものの、秀吉に服属することへの反発が收まらず、その延期を申し出た。

そうした渦中の同年11月3日、秀吉から真田領と認定された名胡桃城が、北条氏邦(氏政の弟)の重臣で沼田城代の猪俣邦憲(いのまたくにのり)によつて奪取されるという事件が起こる。現地では長年にわたつて北条氏と真田氏が攻防戦を繰り広げており、北条氏は現地軍の不満を抑えきれず、その暴発を許してしまう。秀吉は自らの裁定を否定する行為と激怒し、北条氏討伐を決意する。

## 関東への国替え

戦国大名の北条氏は滅亡し、北条氏の旧領であった関東(相模・伊豆・武

藏・下総・上総と上野・下野・常陸など一部)の約240万石は家康に与えられた。家康が従来から領有していた5ヵ国(三河・遠江・駿河・甲斐・信濃)を取り上げた上で加増だった。旧領の合計は約100万石だったので、所領は倍増した。しかし、この国替えには問題があった。関東は北条氏が支配していた地域で、領主が家康に代われば領民は反発して一揆を起こし、秀吉から鎮圧出来なかつた責任を取られ、改易となる危険もあつた。こうした状況下にあつても、家康は動搖することなく、新領地で実力を蓄えていく。

皇居東御苑

# 第八回 天下分け目の戦 関ヶ原の戦い



慶長3年8月、秀吉が死去すると、

家康は豊臣政権内で諸大名を味方に取り込んでの多数派工作を進める。秀

吉は政権の許可を得ずに大名同士が縁組するのを禁じていたが、家康は秀

吉の死後に伊達家などと勝手に縁組し、諸大名との同盟関係を強化する。

こうした秀吉の遺命に背く行為を、前田利家、石田三成らに糾弾されるが、前

田利家、石田三成は奉行職を解かれ、家康は反対勢力を次々と屈服、失脚させる。石田三成は奉行職を解かれ、前田利長などによる家康暗殺計画の噂が発覚した後、家康は前田氏討伐を布告し、利長も屈服した。

慶長6年(1600)6月、会津の上杉景勝に謀反の疑いがかかり、家康は景勝に上洛を求めるが拒絶されたため、上杉氏討伐を布告する。家康に

反旗を翻した景勝の討伐に成功すれば、豊臣政権内で家康に異を唱える者はいなくなり、家康一強体制は完成する。しかし、水面下では石田三成を中

心にして、家康を失脚させる密談が進

んでいた。同年7月17日に家康の非法を13箇条にわたって弾劾した。三成た

ちは毛利氏の軍事力を借りて豊臣秀頼がいる大坂城を占拠し、家康の大老職を解くクーデターを断行した。

急報に接した家康は、会津に向かう途中の下野・小山で軍議(小山評定)を開き、上杉討伐の軍列に加わって、諸将を味方につけることができた。

上杉討伐は中止され、家康率いる東軍は西上し、三成たちが率いる西軍と雌雄を決することとなる。家康は西軍の諸将に対して離反工作を進め、内部崩壊させていく。関ヶ原合戦の直前の9月14日には、西軍の総帥だった毛利輝元と和睦し、戦いの帰趨を決定づけることに成功した。翌15日、関ヶ原で

東軍は西軍を破り、朝廷から征夷大將軍に任命され、豊臣政権に代わる新政権の徳川幕府を江戸に樹立し、天下人となる。

関ヶ原合戦祭り



毎年秋に2日間に渡って行われる、関ヶ原町を代表する戦国イベント。メインイベント「関ヶ原合戦絵巻」は、全国から参加者を募集し、東西両軍合わせて総勢約100人規模で行われます。2023年は10月14日(土)、15日(日)開催。

写真提供：岐阜県観光連盟

関ヶ原古戦場の徳川家康最後陣跡



この場所から、家康がなかなか寝返らない小早川秀秋の陣に向けて威嚇の発砲を命じたといわれています。  
写真提供：岐阜県観光連盟  
住所…不破郡垂井町関ヶ原町  
関ヶ原894-29

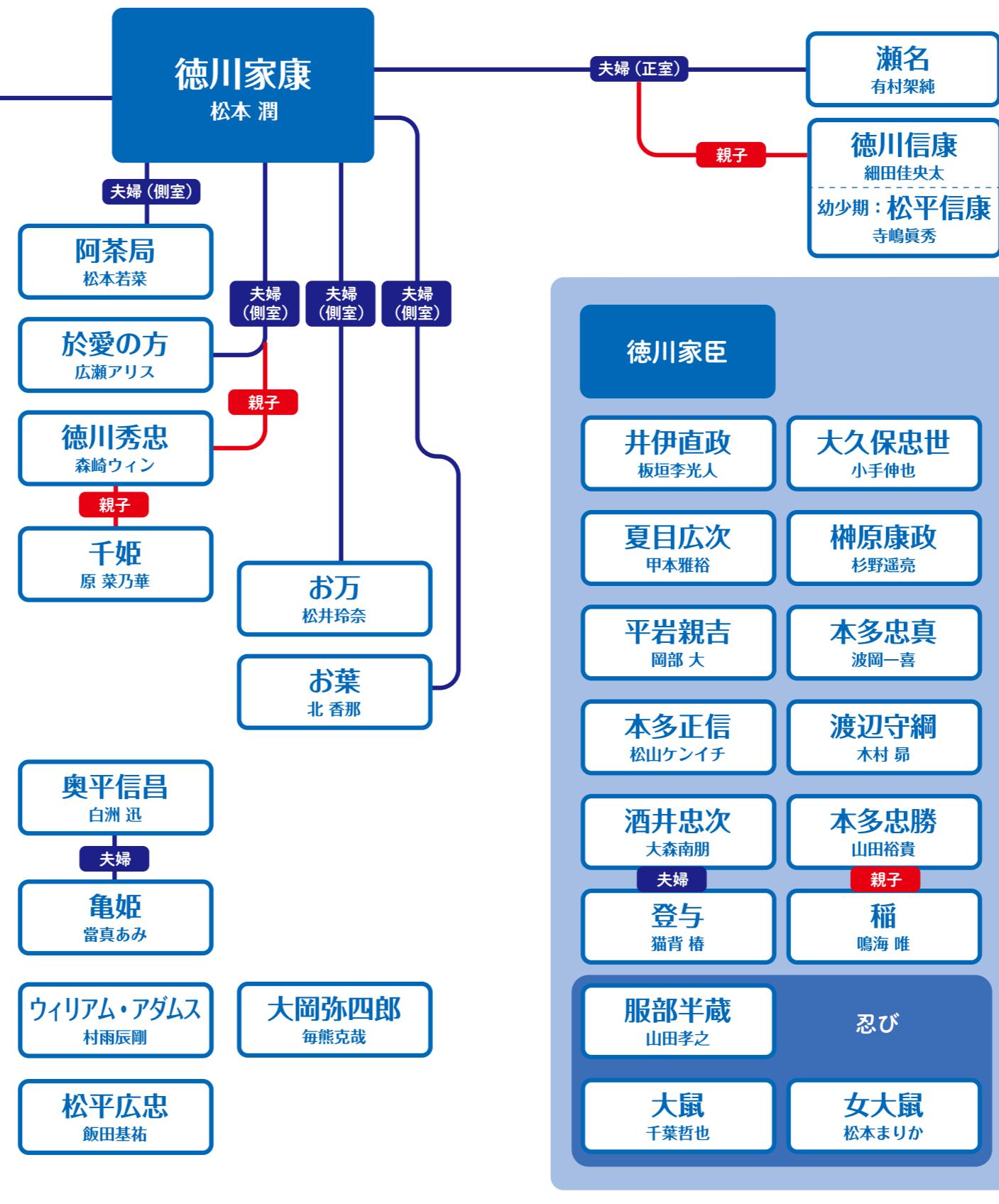
## 徳川家康関係年表

年月	年齢	事項
天正12年(1584)4/9 11/12	43才	家康・織田信雄連合軍、秀吉軍を長久手の戦いで破る。 秀吉と信雄、和睦する。
13年(1585)7/11 閏8/2 10/28 11/13 11/29	44才	秀吉、閑白就任。 徳川勢、上田城主真田昌幸に敗れる。 家康と北条氏、起請文を交して同盟を強化。 石川数正、出奔。
14年(1586)1/24 2/8 3/9 3/11 10/27 12/4	45才	天正大地震。 信雄、秀吉への臣従を説得。 秀吉、家康赦免。 家康、北条領の伊豆三島で氏政と対面。 駿河三枚橋城で再び対面。 大坂城で秀吉に拝謁。 居城を駿府に移す。
15年(1587)3/1 5/8	46才	秀吉、九州攻めのため大坂城出陣。 島津氏降伏。
16年(1588)5/21 8/22	47才	家康、氏政・氏直父子に起請文を送って上洛を強く求める。 上洛した北条氏規、秀吉に聚楽第で拝謁。
17年(1589)6月 7月 11/3	48才	北条氏、上野国沼田・吾妻領に関する秀吉の裁定に従う。 真田昌幸、北条氏に沼田・吾妻領の三分の二を引き渡す。 北条勢、真田領の名胡桃城奪取。
18年(1590)2/10 3/1 3/29 4/4 6/6 7/5 7/11 7/13 10/16	49才	家康、駿府城出陣。 秀吉、京都出陣。 秀吉軍、山中城を陥落させる。 徳川勢、小田原城近くに陣を構える。 家康と信雄による開城交渉開始。 北条氏降伏。 氏政たち切腹。
19年(1591)4月 7/9	50才	秀吉、小田原城入城。家康、北条氏旧領に因替え。 東北で葛西・大崎一揆勃発。結城秀康と榎原康政を鎮圧に派遣。 江戸城本丸の拡張開始。
文禄元年(1592)2月	51才	家康、九戸一揆鎮圧のため出陣(10/29、江戸城に戻る)。
慶長3年(1598)8/18 4年(1599)1/19	57才 58才	江戸城を出陣。名護屋城に向かう(2年8月まで在陣) 秀吉死去。 大老の家康、前田利家ら四大老と石田三成ら五奉行から伊達家などの縁組を糾弾される。
閏3/3 閏3/4 閏3/9 9/7 10/3	59才	利家死去。 加藤清正たちによる三成襲撃未遂事件。 三成、奉行職を解かれて佐和山に隠退。 前田利長などによる家康暗殺計画の噂発覚。
5年(1600)6/2 6/18 7/17		家康は前田氏討伐を布告～後に屈服。 家康、会津出陣の意向を示す。 伏見城出陣。
7/25 8/23 9/1 9/14 9/15 10/1		毛利勢、大坂城西丸を占領。 豊臣家奉行衆、家康の非法を13箇条にわたり弾劾。
8年(1603)2/12 3月	62才	小山評定。 西軍の岐阜城陥落。 家康、江戸城出陣。 美濃赤坂の東軍本陣に入る。毛利氏と和睦。 関ヶ原の戦い。 三成たちを処刑。
10年(1605)4/16 11年(1606)3/1	64才 65才	家康、將軍職を嫡男秀忠に譲る。 西国大名を動員して石垣の築造を開始。
12年(1607)閏4/1 19年(1614)7/3 10/1	66才 73才	東国大名を動員して外堀と天守の築造を開始。 駿府城の普請終了。家康が御殿に入る。以後、駿府城を居城とする。 家康、大坂攻めを命じる(大坂冬の陣)。
元和元年(1615)5/8 2年(1616)4/17	74才 75才	大坂城落城。豊臣氏滅亡(大坂夏の陣)。 家康、駿府城で死去。

## 全体相関図と 主な登場人物

(枠内下段は演者)

# 徳川家



# 豊臣勢



# 真田勢



# 北条勢



# 本関町古墳群・一ノ関古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員・資料統括

田村 博

本関町古墳群は、伊勢崎市の国道462号と北関東自動車道、上武道路が交差するあたりの、国道462号沿いに立地する古墳群です。今回は、本関町古墳群のうち、「赤玉」の出土で話題となつたC区2号墳と、市指定史跡で史跡公園として整備されている「一ノ関古墳（植蓮村第71号古墳）」を紹介します。

この古墳群は、古墳時代後期～終末期の6～7世紀の古墳群です。古墳群は南北約1200m、東西約300mの広大な範囲にわたり、これまでに70基以上の古墳が発掘調査されていますが、本来は100基以上の古墳が存在したと考えられています。この古墳群の南端の低地部以外に古墳時代の堅穴建物は確認されていませんので、古墳群の範囲が墓域として区画されていたことが窺えます。

C区2号墳は、国道462号の改築事業

に伴う平成15年度と16年度の発掘調査で発見されました。他に19基の古墳と6基の方形周溝墓も調査されています。

この古墳は6世紀後半に造られた円墳ですが、墳丘上面が削平されていた上に、古墳全体が調査できなかつたことから詳細は不明ですが、墳丘長は9～10mほどと推定され、周堀は約2～5mの幅で墳丘の外側を廻っています。（写真1）

古墳の主体部は、内側の一部が赤彩された堅穴式小石槨で、墳丘のほぼ中央部に設置されていました。主体部の掘方は、長さが約2.5m、幅が約1.3mの長方形です。その掘方の内側に30cmほどの角礫を並べ、その上に50～60cmの角礫を蓋石として並べて小石槨が造られていました。（写真2）

出土遺物は、15個の赤玉のみです。赤玉

は、主体部掘方の壁と小石槨との間から

出土しました。

赤玉は直径約7cmの球形で、重さは約220～290gで、わずかに平たい底面があります。（写真3）赤玉は赤色顔料の素材を团子状に丸めたもので、群馬県内からは、本関町古墳群C区2号墳のほかに、吾妻郡中之条町の伊勢町地区遺跡群と渋川市の金井東裏遺跡から出土しています（金井東裏遺跡については、本誌2011年秋号（38号）の「甲を着た古墳人」で紹介されています）。伊勢町遺跡群では、5世紀後半の堅穴建物から2点出土し、金井東裏遺跡では6世紀初頭の榛名山二ツ岳の噴火に伴う火山灰（H<sub>2</sub>SiO<sub>4</sub>）の下の掘立柱建物から100点以上出土しました。これら2例が堅穴建物出土と掘立柱建物からの出土ですので、本関町古墳群C区2号墳出土の赤玉は、古墳から出土した群馬県内唯一の出土例となります。

赤い色には神聖な意味があつたようですが、土器や埴輪などに塗られたほか、古墳の石室の壁に塗られることもあります。C区2号墳になぜ赤玉が副葬されたのかについて、群馬県立歴史博物館の右島和夫特別館長は、被葬者が赤色顔料の生産に従事していた人物ではないかと考えています。

「一ノ関古墳は、6世紀後半に造られた前方後円墳で、古墳の全長は前方部が柏川により削られているため不明ですが、後円部は直径約34m、墳頂部の高さは約4.4mで

引用参考文献  
・伊勢崎市教育委員会2008 「一ノ関古墳」  
・群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 「本関町古墳群」



# 田中明子

美術研究家 染谷滋

## 日常生活のひとコマを、清澄な色彩空間に

### 初の芸術文化功労賞受賞

前回は企業メセナ群馬の芸術文化奨励賞受賞者を紹介したが、今回は昨年度初めて設けられた功労賞受賞者を紹介する。功労賞は本県芸術文化の振興に長年にわたって貢献した人に光を当てるもので、その第1回目の受賞者に選ばれたのが田中明子である。

戦前はもとより戦後日本の社会でも、女性が自由に生きるには困難な時代が長く続いた。そんな時代に女性が画家として生きるには、以前紹介した塩原友子のように結婚もせず孤高の道を貫くか、美術教師として働きながら自らの画業にも時間を割く道が比較的多くあった。

そのどちらでもなく、結婚して夫の仕事を手伝いながら主婦として生きた田中明子の場合は、絵を描くことへの意志を強く持ち続けることで、画家として自らの画風を確立し、女流画家の世界を切り拓いたものとして重要で、功労賞の受賞にふさわしいものといえるだろう。

### 高崎で中村節也に師事

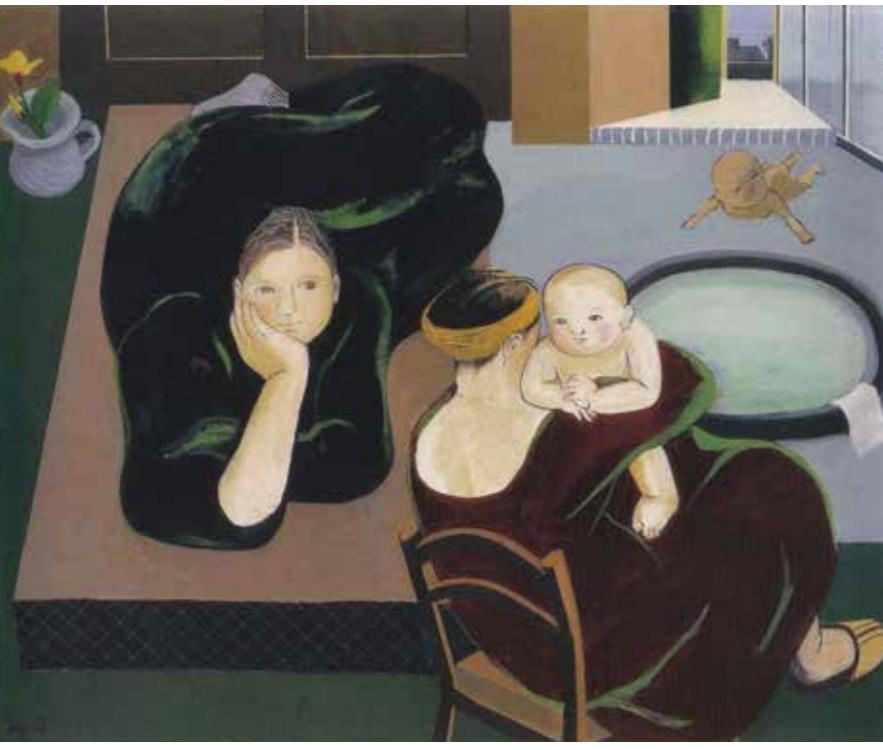
田中明子は一九三三(昭和八)年一月七日、東京市荏原区(現在の東京都品川区)に生まれた。旧姓は山口明子。三歳上の姉・幸衛との二人姉妹で、父が日本橋の明治生命の支店長を勤めていた関係で「明子」と名付けられたのではないかというが、その名の通り明るい子に育つた。

父の妹は戦前の文展に入選したこともあつたようで、明子も姉も子供のころから絵が好きだった。時代が戦争へと向かわなければ、一家が高崎に転居することもなかつたに違いない。一九四五年の東京大空襲で焼夷弾が降る中を逃げ回つたことを明子は忘れることはない。

高崎で終戦を迎えると、好きな絵を学びたくて師を求めた。父が「高崎で一番上手な絵描き」として探し出したのが独立美術協会会員の中村節也(一九〇五~一九九二)だった。以来、明子は中村節也を師と仰ぎ続けることになる。

戦前の群馬出身の画家は、東京に出て画業を大成させるのが普通だった。中村節也もそうしたが、繰り返された応召と東京のアトリエが戦災で焼かれたことが影響して、戦後は高崎に腰を据えた。中村のような実力ある画家が地域に存在することで、群馬の美術界は活気を呈することになる。その舞台の大きさものが一九五〇年に誕生した群馬県美術展(県展)だらう。

田中明子の記憶では第1回県展に初入選したことになつてゐるのだが、当時の入選者名簿には見つか



未来に願う(2017年)

### 略歴 田中明子 AKIKO TANAKA

1933	1月7日、東京に生まれる
1945	東京大空襲を受け一家で高崎に転居
1946	中村節也が指導する高崎洋画研究会に学ぶ
1952	第3回群馬県美術展に入選
1956	4年間通学した武蔵野美術学校卒業
1959	高崎・珍竹林画廊で初個展
1961	第12回群馬県美術展で前橋市長賞受賞
1969	ぐんま女流美術協会創立に参加、以後毎年
1978	第20回群馬県美術展で佳作賞受賞(以後受賞多数)
1981	第29回群馬県美術展で県美術会会員推挙
1982	群馬独立展に参加、以後毎年
1985	第39回女流画家展に出品、以後毎年
1986	第54回独立展に出品、以後毎年
1988	ぐんま女流美術協会代表に就任
1989	銀座・望月画廊で大作中心に個展
1990	独立美術協会会友に推挙
1998	高崎シティギャラリーで個展(通算6回目)
2006	高崎・広瀬画廊で加庭節子との二人展
2012	高崎高島屋で七宝作家の富沢恵子と二人展
2023	企業メセナ群馬芸術文化功労賞受賞

### 結婚、遅くなつたデビュー

女性の美術学校では、一九〇〇(明治三十三)年創立の女子美術学校(現大学)がよく知られているが、明子は女子だけの学校は嫌だった。一九五六(昭和三)年武藏野美術学校卒業。三年後の五九年には高崎の珍竹林画廊で初個展を開き、さらに二年後の第12回県展では前橋市長賞を受賞しているので、好きな絵の道をやめてないことは分かるのだが、足取りは遅い。この時期、母親が経営していた喫茶店を手伝つていたようだ。

### 開花した才能

独立展初入選が53歳のときだから、随分と遅いデビュード。それでも持ち前の才能は健在で、初入選から四年後には会友に推挙された。ぐんま女流美術協会でも一九八九(平成元)年から代表に就任して三年務める。九八年には銀座の望月画廊で東京での初個展。翌年には高崎シティギャラリーで代表作を集めた展覧会も開いた。

田中明子の作品は構成がしつかりしていて無駄なものが多く、簡潔で気持ちが良い。何よりも色彩が明快で濁りがない。他の作家の影響を受けても、しっかりと自分の世界に溶け込ませている。社会的テーマを描く時期もあったが、近年では日常生活のひとコマを思わせる情景が多く、さりげなく希望や夢が語られているようだ。

海外への取材も多く、訪問した国は17カ国を数える。人物画が得意で外国をテーマにしても作品には必ず人物を配した。「手と足をしつかり描くことが大事」と人物画のコツを語ってくれた。

今年卒寿を迎えた田中明子の、一層の長寿を願いたい。

60人を超えるメンバーが集まり、高崎スズランを会場に毎年展覧会を開いた。

豊かな地域社会を  
支えるオフィスビル

# 阿佐谷北口駅前ビル

## 大規模改修を実施中

永和不動産株式会社様は、阿佐谷北口駅前ビルの各階オフィス及びエレベーターホール

大規模改修を実施されています。今回の

大規模改修は、現代的なスペック、設備を

備えて顧客満足度の向上を図り、長期間の

入居に対応することを目的にしています。

入居されている企業は、某大手電機メーカーで、永和不動産株式会社様に「リニューアル後のオフィスに大変満足しています」との感想を寄せられたとのことです。



エレベーターホール



5階事務所



女子トイレ



男子トイレ

建設プロダクトのヤマトは、令和2年11月より同ビルの各フロア（3階、8階、7階、5階、4階）を継続的に施工させていただいているおります。快適なオフィス環境の提案として、設計提案段階で天井高を2400mmから2500mmにすることや、トイレの便器の数を現状より増やす提案をしたところ、ご採用いただきました。今後も、お客様のご満足につながるご提案、工事を行っていく所存です。

（株）ヤマト 東京支店 営業部 安部記）

所在地：東京都杉並区  
阿佐谷北2-13-2  
JR阿佐ヶ谷駅前

建物概要：築35年、SRC造  
延床面積：13,530m<sup>2</sup>  
地下1F・地上8F



全景

### お客様の声

#### 永和不動産株式会社

管理部 上席課長 小林保洋 様

阿佐谷は、かつては多くの文学学者や芸術家が集まり、文士村として知られていました。その影響は今でも感じられ、街には古い書店やカフェが点在し、近年は、個性的なショッピングアートギャラリーも増えています。そんな

歴史と現代の魅力が交錯する魅力的な街の駅前に、阿佐谷北口駅前ビルは位置しております。

当ビルは1988年に竣工し、今年で築35年を迎え、時代の変化に対応をするため、アップグレードが必要となりました。

2020年11月に始まった阿佐谷北口駅前ビルの各階オフィス及び工事も、現在着工している4階を含め3分の2の進捗となりました。これまでに工事が完了した3階、5階、7階、8階の工事は、テナントの皆様からも非常に高い評価をいただいております。空調、ダクトを柱廻りに通すアイデアにより天井高を既存より100mm上げることに成功、またトイレは現代的な意匠に仕上げるにとどまらず、個室ブースを男女ともに増加をすることに成功、またトイレは現代的な意匠に仕上げるにとどまらず、個室ブースを男女ともに増加をするな

ど、ヤマト様からの様々なご提案により、テナント様と私たちの要望を全て実現していただきました。

また、本工事は1フロアごと建築設備を全て一新するため、テナント様には一度別のフロアへの移転というご協力をいただいております。テナント様、ヤマト様と緊密に連携が必要な、難易度の高い大きなプロジェクトにもかかわらず、これまで無事に工事を進めて来られましたのも、ひとえにテナント様とヤマト様のご支援とご協力の賜物でございます。

私たちの目標は、テナントの皆様に快適で、さらに生産性の高い環境のオフィス空間を提供し、業務を行っていただくことです。ヤマト様のプロフェッショナルな工事チームには、その目標を実現するために最善の努力を全くしていただいております。全ての工事が完了し、阿佐谷北口駅前ビルがより魅力的な建物になることを楽しんでいます。

プロジェクト様、テナント様を始め、この皆様に心より感謝申し上げます。

### 阿佐谷の夏の風物詩 七夕まつり

阿佐谷の夏の風物詩



七夕飾り



七夕飾りを楽しむ来場者